

2018 年度 立命館附属校 教師塾（新任研修）Ⅴ

附属校教育研究・研修センター

台風で実施できなかった第5回教師塾を、11月27日（火）に実施した。

講師は当初よりお願いしていた立命館大学 稲盛経営哲学研究センター客員教授 高津正紀先生をお迎えして「人間の無限の可能性を追求する稲盛哲学」というテーマでお話を頂いた。

参加者は14名（立命館中高1名、立命館小2名、立命館宇治中高2名、立命館慶祥中高3名、立命館守山中高6名）であった。研修内容を次の通り報告する。

【研修の記録】

1. 稲盛和夫氏の足跡

①学生時代

受験の失敗や就職難など数々の困難を経験。恩師の紹介である会社に入社し、一生懸命取り組んで一定の成功を収めるも、会社に十分評価されず退職。

①京セラ創業（27歳）

過酷な業務の中、社員が生活の保障を会社に求めてくる。

経営理念の変更「全従業員の物心両面の幸福の追求。人類社会の進歩発展に貢献」へ

②KDDI創業（52歳）

通信料の高額問題に対応するため乗り出すが、インフラはなし。

それにも関わらず成功したのは、背景に「人類社会の進展進歩に貢献」という哲学

③JALの再建（78歳）

勝算がないとして誰もが手を出さなかった案件。縁のなかった業界。高年齢。こうした悪条件にも関わらず成功したのは、背後に3つの大義があったから。

- 1) 日本経済再生のため
- 2) JAL社員の雇用を守るため
- 3) 健全な航空業界の競争のため

2. 稲盛哲学

人生や仕事の結果＝考え方（-100～100）×熱意（0～100）×能力（0～100）

*「考え方」が結果に大きな影響を及ぼす。⇒常にプラスの考え方をすべし。

＋の考え方とは；

前向き、明るい、肯定的、協調的、思いやり、優しい、真面目、正直、謙虚、感謝、利他
⇒視野が広くなり、長期的な成功を導く

マイナスの考え方をしていると、人がついてこず、成功しても長続きしない

*もって生まれる性格と、後天的に身に着ける哲学から形成されるのが「人格」。

人格は、磨くのを怠ると、劣化する。⇒常に人格を磨く努力をすべし。

*稲盛哲学の内容

- ①人間として正しいか（勇気が必要！）
- ②常識にとらわれず原理原則に従って判断（中庸、折衷ではいけない）
- ③強い思いは必ず実現する（高い志を持つことによって行動が変わる）
- ④利他の心（利己の心は生存のためには必要、しかしそれを肥大化させてはいけない）
- ⑤全員参加（全員で目的を共有し、一人一人が経営者マインドを持つと、大きな力となる。）

3. 稲盛哲学を教育にいかにかすか

「企業は、経営者（リーダー）の器以上に大きくならない」

⇒教育も、教師の器によって成果が左右される⇒教師も、常に自らの器を大きくすべく、研鑽を積むべし

（文責：立命館守山中学校・高等学校 寺田智恵）

（編集 附属校教育研究・研修センター 羽田 澄）

